



CxSAST 9.4.0で実装された新しい機能や機能改善は以下の通りです。

・フレームワーク&言語のカバレッジを強化

新たに下記のフレームワークをサポートしました。

- ・ Angular for TypeScript
- ・ Spring for Kotlin
- ・ VisualForce for Apex
- ・ Lighting for Apex
- ・ Lighting Web Components for Apex

また、下記の言語に対するサポートを強化しました。

- ・ Apex
- ・ Java
- ・ Kotlin
- ・ .NET Core
- ・ Python
- ・ TypeScript

※ 現時点では Java 言語のみですが、TruffleHog クエリによる秘密鍵の検出が可能になりました。
CxQL (Checkmarxのクエリ言語) を使用して、TruffleHog クエリをエミュレートすることで、
スキャン対象のプロジェクト上で Regex および High Shannon Entropy クエリが実行されます。

CxSAST 9.4.0でサポートされている全プログラミング言語やフレームワークの一覧は、[Checkmarx Knowledge Center](#)でご確認いただけます。

・APIのセキュリティ脆弱性検出を強化

C#言語におけるAPIのセキュリティ脆弱性検出用のクエリを改善しました。

・機能改善

- ・異なる設定（スキャンタイプ、コードタイプ、プロセスの状態、キャンセルモード）で、同じプロジェクトが同時にスキャンされている場合、自動的にキャンセルできるようになりました。

- ・ スキャンレベルにカスタムフィールドが追加されました。これは、スキャンレベルで特定のメタデータを追加したいという多くのお客様のお声に応えての改善です。これにより、CxCASTのスキャンデータに独自のデータを追加して、レポートやダッシュボードで利用できるようになりました。
- ・ 以下の情報を取得するための新しいスキャンメトリクスAPIを追加しました。
 - ・ スキャン済みファイルと未スキャンファイルの数とそれぞれのファイルの一覧
 - ・ 検知されたがスキャンされなかった言語の数とその言語を含むファイルの一覧
 - ・ 言語ごとのスキャン済みファイルの一覧

新しいスキャンメトリックAPIの詳細については、[CxSAST REST API Guide](#)を参照してください。

・ エンジンを改善

以下の機能を含む、いくつかの新機能を追加しました。

新しいフローのスキャン設定 - 新しいフローでは、誤検出や検出漏れを減らすことでスキャンの精度を向上させました。また、スキャン時間やメモリ消費量などのスキャンパフォーマンスも向上しています。さらに、フローの計算を本当に必要な場合にのみクエリのフェーズでだけ実行することで、パフォーマンスの向上につながっています。詳細については、「[Configuring CxSAST to use the New Flow Scan Process](#)」を参照してください。（注：新しいフローの設定は、CxSAST 9.4.0では、新しいプロジェクトごとの定義となります。）

・ CxSASTのリリース方法が変わります

CxSAST 9.4.0から、2ヵ月ごとに新しいエンジンパックのリリースを予定しています。新しいエンジンパックには、以下が含まれます。

- 言語とフレームワークの更新
- 新たなクエリ (今まではコンテンツパックとしてご提供)
- コアエンジンの変更

エンジンパックは、9.4.1、9.4.2、9.4.3 のようなバージョン番号で提供されます。エンジンパックの詳細については、「[Introducing - Engine Packs](#)」をご参照ください。



商標について

本書内に記載されている会社名、システム名、製品名には各社の登録商標または商標が含まれます。本文および図表中には、「TM」および「(R)」を明記しておりません。